

帰国後、あの見事なセント・ポール教会が今や無残な廃墟と化し、あの美しい柱廊式玄関が……今や粉々に砕け、広々とした石の柵がバラバラになり、誰が建てたのかを記す銘が一文字も欠けることなく残る主梁を除いて、何も遺されていないのを目にして、私は限らない不安を覚えた。高温で熱せられた巨大な石材の脆さには驚くばかりで、重厚なポर्टランド石でできた装飾や柱、フリーズ、柱頭、それに張り出しが全て砕け、屋根まで飛んでいったのである。またその屋根の巨大な空間（実寸にして6エーカー（24280平方メートル）を下らない）を覆っていた鉛板は、完全に溶け落ちてしまった。そして、崩れ落ちた丸屋根の残骸が、セント・フェイス礼拝堂に飛び込んだ。そこには、安全に保管するべく書籍商の書物が運び込まれていたのだが、1週間にわたり燃え続け、全て焼き尽くされてしまった。東端の祭壇を覆う鉛はそのままで、様々な墓石の中に混じって1人の司教の遺体が完全な状態で残っていることも見て取れる。かくして、最も由緒ある教会、キリスト教世界における初期の信心深さを示す最も古い作品のひとつが灰と化したのである。

ラドゲート・ヒル、EC4（最寄り駅:ディストリクト線ブラックフライアーズ駅、マンション・ハウス駅、セントラル線セント・ポールズ駅）この建物は、クリストファー・レン卿による傑作です。1666年のロンドン大火で、同地にあった今よりも一層大きな旧大聖堂^{カテドラル}が破壊された後、その後継として建てられました。ロンドンの建造物の中でもひとときわ卓越したルネッサンス様式の巨大建造物で、その外壁部の長さは515フィート（157メートル）、袖廊部幅は250フィート（76メートル）、舗道から十字架頂点までの高さは365フィート（111メートル）あります。

ここに埋葬されている多くの著名人の中には、クリストファー・レン卿、ネルソン、ウェリントン、そしてジェリコーなどの貴族や、フローレンス・ナイチンゲール、レイノルズやターナー（訳注：劇作家フレデリック・レイノルズと画家のジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー）などがいます。**営業時間**:平日午前9時から午後5時ないし6時まで。**入場無料**:身廊および袖廊、ただし聖務中は、一般訪問客は移動厳禁。**入場料**:地下室6ペンス。図書室・ささやきの回廊ならびに石回廊6ペンス。黄金回廊1ペンス（小人無料）。丸屋根1ペンス（小人無料）。



秘密主義の 大富豪、 船でロンドンに

数多のスター女優のキャリアに影響を与えてきた、著名な“暗幕の背後の男”ことハリウッドの大立者ヒューバート・ウォルトンは、クイーン・メリー号でロンドンに向かう旅の途上だ。ウォルトンはヨーロッパで数カ月を過ごす予定で、我らがルエラ*の言葉を信じるなら、更に新たな才能の持ち主を探しているのだとか。容姿端麗なロンドンっ娘が、彼のオーディションに殺到するのだろうか？ もちろんそうなるだろう！

※ 映画評論家のルエラ・パーソンズ (1881～1972)

